

戦争絶対にしらないで

東京・渋谷 宗教者ネットが行動

岸田文雄政権の大軍 前で「武力で平和はつ
拵に反対する宗教者ら
が15日、東京・渋谷駅

前
た。「平和をつくり出
す宗教者ネット」など
が呼びかけ、約20人が
参加しました。

述べました。
元教員で牧師の女性
(70代)は、「反戦平和
がなかなか言えない世
の中だ。教科書検定の
状況から教育の統制を
感じている。戦争は教
室から始まる」と語り
ました。
通りかかって足を止
めた渋谷区在住の女性
は、現在の政治状況に
ついて、「徴兵が始ま
りそうだ」と語り、「ウ
クライナやロシアのよ
うになってほしくな
い」といいました。



岸田大軍拵に抗議する宗教者ら15日、東京・渋谷駅前

小雨が降るなかマイクを握ったカトリックの田口砂知子さん(70)は、「宗派を超えて戦争をとめるために行動している」といい、「人間は殺し合ってはいけない。愛し合うために生まれてきた。そのことを忘れないで」と訴えました。

日本カトリック正義と平和協議会委員の齊木登茂子さんは、「選挙にみんなが行けば政治は変えられる。政治や社会に目を向けてほしい」と呼びかけました。キリスト者の女性(50)「東京都」は、「戦争は始まったら終わらせられない。戦争を絶対にしらないで」と

陸自小銃発射事件

陸上自衛隊日野基本射撃場（岐阜市）で自衛官候補生（18）の男が小銃を発射し、自衛官3人が死傷した事件（14日）は、殺傷兵器を運用する実力組織の危険性をまざまざと示しました。

15日の衆院安保委員会で、防衛省の説明によると、男は第35普通科連隊（守山駐屯地Ⅱ名古屋市）に所属し、これまで空包1回、実弾3回を撃ち、今回が3回目でした。使用したのは89式小銃です。

ある陸自元幹部は、事件の背景として銃器のずさんな管理態勢があった可能性を指摘しました。「射撃訓練の規則では、撃ち手が射座（射撃位置）についてた上で、射撃の直前に弾が渡されることになっている。しかし、今

組織の劣化著しい自衛隊 戦争準備やめ原因究明を

射撃訓練を行う自衛官候補生（陸自第35普通科連隊ホームページから）



つく前に弾が渡されていたことになる」

理事会でこの点を指摘された防衛省は「分からない」「調査する」などとして明言を避けました。

さらに同省は、日野射撃場に、心停止の際の救命に使用する「AED（自動体外式除細動器）を装備していなかったと認めました。救命態勢のずさんさも露呈しました。

陸自では、今年4月に沖縄県宮古島付近でUH60Jヘリコプターが墜落し、坂本雄一・第8師団長（当時）ら計10人が亡くなる事故

が発生。昨年は元自衛官の五ノ井里奈さんが部隊内での性暴力を告発し、全自衛隊での「特別防衛監察」に発展しました。

岸田政権は昨年末、安保3文書を改定し、敵基地攻撃能力の保有など大軍拡を進めています。なかでも陸自は九州から沖縄にいたる南西地域への重点配備を進め、米軍と一体になった敵基地攻撃態勢の最前線に立たされようとしています。

しかし、自衛隊は著しい組織の劣化にさらされています。「戦争準備」を直ちにやめ、第三者委員会の設置など国民に開かれた形で、一連の事件・事故の原因究明と教訓を導き出すことこそ、最優先で行うべきです。その上で、住民の安全を守る上でも、民家に近い射撃訓練場はただちに撤去すべきです。

（竹下岳）